

東京学芸大学大学史資料室常設展示

Regular
Exhibition
2026
Autumn



東京学芸大学のあゆみ



- 写真上：「東京学芸大学附属図書館旧館」「創立20年誌写真資料」(〔1969年〕撮影)
- 写真下：「第42～44回小金井祭パンフレット」(1994～1996年)

大学での学びと学生生活

【会期】2026年10月13日(火)～12月25日(金)

【時間】[平日] 10:00～16:00

【場所】東京学芸大学附属図書館3階 大学史資料室

【問合せ先】東京学芸大学大学史資料室 [電話] 042-329-7277

[メールアドレス] shiryou@u-gakugei.ac.jp



東京学芸大学
大学史資料室
Office of Tokyo Gakugei Univ. Archives



大学史資料室常設展示によせて

東京学芸大学大学史資料室(以下、大学史資料室)は、2021年度より附属図書館3階に閲覧・展示スペースを開設して、常設展示を行っています。これは、大学史資料室が設立から14年目を迎えるにあたり、大学史資料室の機能を一層高めるための取り組みです。

大学史資料室は、本学の運営及び教育研究等に関する重要な資料、また前身校である師範学校時代から現在に至る本学の歴史に関する重要な資料を調査・収集し、その資料の整理、保存及び公開を行うことを任務として出発しました。これは、わが国の教員養成の中核をなしてきた本学の位置を鑑みれば、明治期以来の日本の教員養成の歩んできた歴史の資料を調査・収集し、それを保存・公開していくことと重なります。その意味で、常設展示は、整理・保存してきた資料を継続的かつ安定的に公開する機会であり、その意義は非常に大きいといえます。

常設展示は、2年サイクルで、年ごとに年間テーマを設定し(1年目は「師範学校の歴史をふり返る」、2年目は「東京学芸大学のあゆみ」)、1年間で4～6月、7～9月、10～12月の三期に分けて、展示内容を換えて行っています。

2026年度の年間テーマは「東京学芸大学のあゆみ」で、第三期は10月13日(火)から展示を開始します。今回のタイトルは「大学での学びと学生生活」です。東京学芸大学は、1949年の「国立学校設置法」により東京都内にあった師範学校を統合する形で、新制大学として成立しました。大学成立当初は、旧師範学校所在地に置かれた分校・分教場の集合体でしたが、これらは順次廃止・統合され、最終的に1964年の小金井への統合をもって、現在のキャンパスの原型が形作られました。今回の展示では、小金井統合前後の1960年代から70年代にかけての時期を中心に、大学において何が学ばれ、学生たちはどのような生活を送っていたのか、学生生活や授業、大学行事の様子などについて、当時の写真や資料から紐解いています。特に本展示では、①「パンフレットに見る小金井祭の変遷」と、②「知っていますか?東京学芸大学附属図書館の旧館時代」という二つの企画をご用意しています。①の展示では、大学史資料室が所蔵している過去の小金井祭(東京学芸大学の大学祭の名称)のパンフレットを展示し、時代によって小金井祭がどのように変遷したのか、その歴史を追います。②の展示では、附属図書館の旧館(現在の中央6号館)時代の見取図や館内の様子の写真、現在の形に改修される前の懐かしの図書館の写真などを展示しています。

2023年、東京学芸大学は東京府小学教則講習所として設立してから150年目の「創基150周年」を迎えました。常設展示は、東京学芸大学とその前身校、附属学校園の歴史を振り返るものです。少子化や私学授業料無償化の流れの中で、国立教員養成大学や附属学校園の存在意義が改めて問われています。本学学生、卒業生、教職員、そして関係者の皆さまには、常設展示に映し出される東京学芸大学と附属学校園の歴史に想いをはせ、将来の姿について思いを馳せていただければと存じます。

2026年10月13日

東京学芸大学大学史資料室長
副学長・附属図書館長

君塚 仁彦

Regular
Exhibition
2026

Autumn

東京学芸大学のあゆみ

